

目 標

我々、いわき経済同友会会員は、企業経営者の異業種交流活動を通して、三つの目的を達成し、仲間の連帯を深め、地域経済の発展と活性化をはかり、夢と希望に満ちあふれた地域社会づくりをめざします。

SEA

いわき経済同友会

IWAKI

3つの目的

- 1つ よい社会をつくろう
- 2つ よい経営者になろう
- 3つ よい経営環境をつくろう

7月号/2012年7月1日発行

6月19日(火)

6月通常例会

○会場/椿山荘

テーマ 「港の復旧・復興、そしてこれからの小名浜港」

講師 国土交通省 東北地方整備局 小名浜港湾事務所長 魚谷 憲氏



【国土交通省東北地方整備局小名浜港湾事務所魚谷所長の講演要旨】

小名浜港はいろいろな機能を持ったバランスのとれた港です。

まず、小名浜港としての役割は、石炭・石油をはじめとするエネルギー資源関連貨物の輸入・火力発電所などへの燃料供給の配送(3号、6号、7号、大剣ふ頭)の拠点。亜鉛鉱などの金属鉱や化学薬品などの工業原料の輸入としての拠点(3号、4号、5号、7号ふ頭)。コンテナ貨物(大剣ふ頭)による原料・製品の輸移入の国際物流の拠点となっております。

これにより小名浜港周辺にはたくさんの企業が進出しており、小名浜地区の製造品出荷額4,550億円、いわき市全体1兆945億円の4割となり、小名浜地区の従業員数7,700人はいわき市全体27,300人の3割になっ

ています。(このデータは平成20年)

また、アクアマリンを中心としての地区は、年間約250万人が訪れる県内有数の観光地でもあります。昨年の震災以降は、県内からの観光客は戻りつつありますが、県外からの観光バスは減少していると思われます。また、いわき沖合は、親潮と黒潮がぶつかる潮目により豊かな漁場でした。水産業の拠点としての役割がありましたが、現在は沿岸漁業は休業中です。

小名浜港の取扱貨物量は、一昨年の数字ですが、年間取扱貨物量1,192万トン、貿易額にして2,218億円ありました。2011年は大震災の影響により貨物量が大幅に減少しました。しかし、昨年6月には内航フィーダーコンテナ航路が再開し、今年4月からは外貿コンテナ航路(韓国)が再開しました。

東日本大震災の概要

小名浜港においての津波の観測値(最大波)は3.3mでした。また沖合約19km地点にある私共のGPS波浪計によると約2.6mが最大波でした。マグニチュード9.0このいわき市においては1.9mの水平移動、上下方向に0.5mの沈下がみられ、港湾施設被災状況は甚大でした。

東日本大震災において小名浜港が果たした役割

小名浜港は概ね半径100kmエリアのガソリン等燃料供給拠点として機能していたが、震災後港湾施設が一時的に利用できず、ガソリンなどの燃料不足になりましたが、燃料輸送タンカーを入港させるため、緊急的に港内の啓開作業を実施し、3月29日にはガソリンを満載したタンカーが大剣ふ頭に入港。以降1日1～2隻ペースで入港しガソリン等燃料不足を解消できました。

- 電力の安定供給
- 工場の稼働・雇用の確保
- 原発事故収束作業の支援
- 代替経路の確保～命をつなぐ薬品の製造～

震災以降の船舶入港状況

震災によりほとんどの岸壁が被災し、利用可能な岸壁は大きく減少したが、応急復旧により暫定的に利用している岸壁を含め、現在、約7割が利用可能となりました。入港船舶隻数は、岸壁等の応急復旧や被災した火力発電所の運転再開等に伴い、2011年6月以降、回復傾向にあります。震災前から発生している沖待ち(滞船日数)は、震災後、さらに増加(悪化)しています。

小名浜港の復旧状況

概ね2年以内を目処に主要な岸壁の復旧完了させ、概ね3年以内に全ての港湾施設の復旧を目指しています。

これからの小名浜港

国際バルク戦略港湾～国際バルク戦略港湾の育成～

わが国の産業や国民生活に必要な不可欠な資源、エネルギー、食糧等の物資を安定かつ安価に輸入できるようにするため、大型船舶による輸送に対応する等のハード・ソフト一体となった施策を集中的に実施することにより、対象品目を取扱うアジアの主要港湾と比べて遜色のない物流コスト・サービスを実現することが目的です。

2015年までに、国際バルク戦略港湾において、現在主力となつている輸送船舶の満載での入港に対応する。

2020年までに、国際バルク戦略港湾において、パナマ運河の拡張や一括大量輸送による物流コスト削減を見据え登場する最大級の輸送船舶の満載での入港に対応することが目標です。

国際バルク戦略港湾～小名浜港の特徴～

【石炭の取扱量】全国で14位、中でも公共埠頭での輸入量は全国1位(2位の約2倍)。つまり小名浜港周辺に石炭火力発電所が多数立地しています。小名浜港取扱貨物の75%はエネルギー貨物でその中の33%は石炭となっています。

小名浜港の多炭種取扱いは年間20種類以上を輸入しています。多炭種輸入の強みは多くのユーザーの炭種、積出港とマッチングします。共同配給、共同調達が可能になり、連携の実現の可能性が大きく、多くのユーザーへの波及効果が大きくなります。

国際バルク戦略港湾 小名浜港の取り組み

国際バルク戦略港湾に係る政策の具体化のため、東港地区において、大水深岸壁の整備、岸壁や荷役機械を含めた関連施設の耐震強化、二港寄り・二次輸送ネットワークの構築に係る官民連携などを盛り込んだハード・ソフト一体となった計画づくりが進められています。

- 東港地区臨港道路
- 臨海部背後地の再開発
- 浮体式風力発電実証研究事業
- Sea級グルメ全国大会開催 10月6・7日

講演後の質問コーナーでは、『国土交通省小名浜港湾事務所と福島県港湾局の違いは?』などの質問があり、講師より丁寧な説明がありました。



◆ 誕生月プレゼント

皆さんへホトスが贈られました



左から寺主君男代表幹事、箱崎洋一さん(6月17日生)

FMいわき「いわき経済同友会だより」

下記の日時にオンエア放送いたしますので、お聴き下さい。

【7月予定放送】

- ・ 7月2日 まちづくり観光グループ 吉田実貴人氏
- ・ 7月9日 まちづくり観光グループ 猪狩 謙二氏
- ・ 7月16日 経済特区研究グループ 小野 潤三氏
- ・ 7月23日 スポーツ交流グループ 高原 繁美氏
- ・ 7月30日 まちづくり観光グループ 佐藤 弓子氏

●毎週月曜日 17時45分からです。(約5分間)

6月グループ会報告

経済特区研究グループ会

■日時 6月21日(木曜日)18:30～

■場所 建設会館

6月度グループ会はいわき市商工観光部商工労政課参事兼課長・下山田松人様をお招きし、「東日本大震災後のいわきの経済の現状と復興について」お話しいただきました。

まずいわき市が今年1月に作成した「東日本大震災後の市内産業動向調査」を基に被害の状況、企業の被災・経営状況、復興需要や雇用の状況などを細かに分析していただき、今後のいわきの経済状況の推移予測を教えてくださいました。特に若年層の県外流出という流れが出てきており、これを食い止めることがいわき経済にとって重要なことになりそうです。

続いて「いわき市復興事業計画(第一次)」から現在の復興事業計画の概略、取り組みを多岐にわたってご説明いただきました。重点施策としては「津波被災地域の土地利用プロジェクト」「災害公営住宅の整備等プロジェクト」「原子力災害対策プロジェクト」「小名浜港周辺の一体的整備・再生プロジェクト」「再生可能エネルギーを核とした産業振興プロジェクト」「既存地域産業の再生プロジェクト」「企業誘致対策プロジェクト」「被災地自治体との連携強化プロジェクト」などがあり、復興へ向けて歩んでいくとのことでした。

会員からの質問・要望も熱を帯び、2時間では時間が足りないほどの内容の濃い講演会となりました。

下山田様にはまた然るべき時に再登場していただくことをお願いしつつ、閉会となりました。



まちづくり観光グループ会

■日時 6月12日(火曜日)18:30～

■場所 建設会館

第2回グループ会公開勉強会を関係他団体の方も呼び寄せて開催しました。

講師 大阪商業大学・アミューズメント産業研究所所長
三井物産戦略研究所・フェロー 美原 融 先生

演題 観光戦略:カジノを含む統合リゾート法案

- 内容
1. カジノとは何か?
 2. 統合型リゾート(IR)とは何か?
 3. 永田町の動き:統合リゾート法案
 4. 制度の基本的な考え方
 5. どうしたら実現できるのか?
地域は何をすべきか?

今回の公開勉強会は、カジノに対する各々のイメージを払拭し、現実のカジノを勉強することができました。カジノは世界最大の規制産業であり、規制の密度は原子力発電所より厳格であることをしり、そのうえで今後いわき市民としてどう考え行動すべきかを検討するいい機会になったと思います。引き続き勉強会を重ねていきたいと考えます。



スポーツ交流グループ会

■日時 6月20日(水曜日)19:00～

■場所 荒川ゴルフクラブ

『レッスンプロによるゴルフ教室』

「スポーツ交流を通じて会員相互の連携を強めよう」を目的として、スポーツ交流会は、会員企業である、富友興産株式会社 荒川ゴルフクラブにてレッスンプロによるゴルフ教室を開催致しました。

富友興産株式会社 荒川ゴルフクラブは、40打席、300ヤード打ちっぱなしで、23時まで営業、練習用グリーンを併設しております。グループ会開催の時もお客が絶えることなく来場しておりました。

レッスンプロに、ご挨拶を頂き、1名1名親切にかつ的確なアドバイスを頂き、1球ごとに球筋の変化が、実感できました。少しのアドバイスで、大きな



効果が出ることは、社員教育に通ずる物が有るのではないかと感じた、グループ会でした。

資質向上グループ会

■日 時 6月16日(土曜日)
■場 所 小野新町～三春町方面

第3回(6月度) 移動グループ会：小野新町～三春町方面の文化財を観る。

今にも雨が降りそうな中、7名にて予定のコースを塚本氏・吉田の車両にて出発。

1. 小野新町・東堂山 福満寺昭和羅漢の見学、現代風の羅漢さんが面白、多々ありました。

東堂山を降りる頃より雨が降り出し、雨の中の研修となった。

2. 小野町・郷土資料館及び丘灯至夫記念館(小野町生まれの作曲家「あこがれの郵便馬車」「襟裳岬」「高校三年生」等々数々の名曲を作曲し小野町の名誉町民第一号となる。

3. 星の村天文台にて丁度在席中の大野台長より「太陽の一生」について講和をうける。ちなみに、太陽は、今後50億年以上輝くそうです。その後、プラネタリウムを観覧する。



4. 船引町の中華料理店にて昼食をとりましたが、なかなか美味しい店でした。

5. 三春町歴史民俗資料館の見学と併設されている自由民権記念館の見学。

三春は明治時代の自由民権運動発祥の地のひとつで、福島県内はもとより東日本の民権運動をリードした多くの民権家の業績を顕彰し、残した品々を見学しました。三春町の交流館、三春のお酒を置いてある町の酒屋などを散策しました。

6. 高柴でこ屋敷は、かつて三春藩により保護されてきた工人たちの集落で4軒を見学する。高柴村での張子づくりは、約300年ほど前の江戸時代元禄年間京都の方から来た者が、張子人形作りを伝えたのがその始まりといわれています。高柴デコ屋敷周辺には、張子人形に使われる「にかわ」の香りが漂い、工人の里ならではの情緒を醸し出しています。



7. 無事に合同庁舎に帰ってくる。

いわきブランド研究会

■日 時 6月4日(月曜日)12:00～
■場 所 ララミュ2F レストランいちよし

カジキ料理コンテスト1次審査会

カジキグルメ実行委員会及びいわき経済同友会ブランド研究会らのメンバーによりカジキ料理コンテストの一次審査会を行いました。

アマチュアの部15組とプロの部15組の中から2次選考会へ進出する計8組を選出いたしました。

●7月通常例会開催●

7月18日(水) ■会場/いわき建設会館 ■会費/1,000円

講 師 福島県商工労働部長 伊東 正晃氏

テーマ(仮) 「福島県の立場から見た福島といわきの復興について」

■18:00～講演会
19:20～例会
20:00～懇親会(天政にて)

いわき経済同友会
ご入会のお薦め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます

●会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。お問い合わせは下記どうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館4F
TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211
http://www.seaiwaki.jp
E-mail:doyukai@triton.ocn.ne.jp

発行集 いわき経済同友会 寺主君男代表幹事
情報委員会 委員長 坂本和久
副委員長/阿部晴康・小野英典・鈴木清友・
竹内康照
委員/山崎勇一郎